

ウバガイ

太平洋海域

Pseudocardium sachalinensis

地方名
ほっきがい、ほっき



生態

- ①寿命：30年以上
- ②成熟：3～4歳以上
- ③産卵期：5月下旬から6月上旬（水温13～14℃）
- ④分布：冷水域の外洋に面した浅海域（水深20m以浅の砂底質）に生息する。
- ⑤生態：受精後3～4週間の浮遊生活を送り、その後、殻長260～300 μmに成長すると着底する。着底直後の稚貝は足糸を出して砂粒等へ付着するが、付着力が弱いため、波浪や潮流等による減耗が大きい。

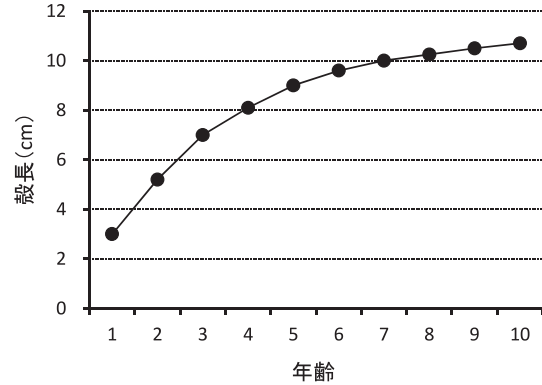


図 ウバガイの成長 (三沢)

主な漁業

八戸市から六ヶ所村沿岸砂浜域において、ほっきがいた網漁業にて漁獲される。ウバガイは砂の中に棲んでいるため、けたと呼ばれる爪のある漁具に袋網をつけて、海底をひっかくように曳いて漁獲する。近年は、貝を傷付けないようにポンプで水流を送り砂から掘り起すような噴流式のけた網が主流である。

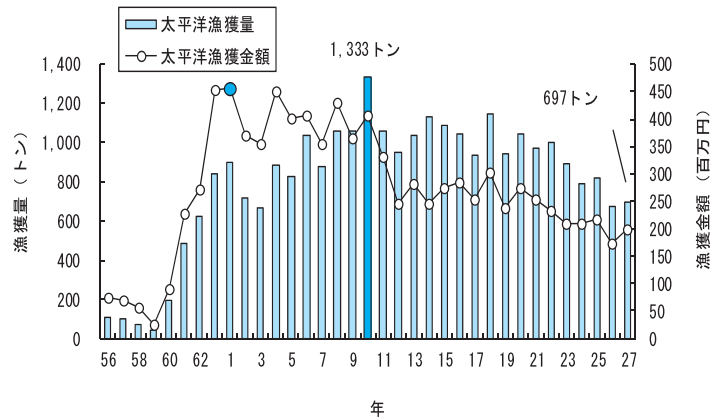


図 青森県太平洋海域におけるウバガイの漁獲量及び漁獲金額の推移

漁獲の動向と水準

漁獲量は昭和60年以降増加し、平成10年の1,333トンを経最高に、平成22年までは1,000トン前後で推移していた。その後減少傾向にある。平成27年の漁獲量は前年並みの697トンであった。



資源を上手に利用するために

三沢市漁協、百石町漁協、市川漁協、八戸みなと漁協の4漁協で「北浜海域ほっき貝資源対策協議会」を組織し、資源量調査や1日の漁獲量の上限を設定するなどの取り組みをしている。
☆資源量を把握し、資源状況に見合った漁獲を行う必要がある。

トピックス

平成10年漁期から、百石町漁協では燃油高騰対策などのために2経営体が1隻で操業する共同操業を行ってきたが、平成19年漁期からは、5経営体が1隻で操業する共同操業を開始した。
平成17年漁期から、三沢市漁協では2経営体が1隻で操業する共同操業を開始した。